

### 大阪サテライトキャンパス

## アフリカとの協働を考えるシンポジウム

大阪サテライトキャンパスは2011年の開設以来、関西およびその周辺でも上智大学の教育研究活動を発信することを目的に、入試広報や公開講座、地域との連携プログラムを実施してきた。今回は9月18日に開催されたアフリカ関連イベントを2つ紹介する。

国際協力、国際機関への道々アフリカ地域への学びを通して、本学のグローバル教育の中でも特色豊かなアフリカ地域への学びについて理解を深めてもらうため、高校生を対象に体験授業と



高校生にアフリカの魅力を紹介するシンポジウムでは活発な意見交換も

キャンパスはサクラファミリア2階に

行った。

そして、アフリカ地域

の一人として参加した特別展「Homologies」



この特別展には、身近にありすぎてほとんど振り返ることのない「ことば」をテーマに、言語学のみならず、文学、人類学、工学系、教育系、脳科学、認知心理学などの分野から、50人を超える国内外

高柳俊一名誉教授逝去(7月28日、前立腺がんのため死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

### 高校生が論文執筆に挑むSophia GEDのプログラム

## 「せかい探究部」の探究活動

高校在学時にオンラインで、その後本学に入学して探究学習プログラム「せかい探究部」を受講し、その成果を報告する懇談会が7月4日に開催された。

「せかい探究部」は、上智学院傘下の教育事業会社でタイのバンコクに拠点を構えるSophia GEDが、2020年から主催する高校生対象のプログラム。受講生が自

ら能力を伸ばすという観点から、入学後も、履修する授業をぶれない軸を持つて選択できている」と

7月12日、総合人間科学部看護学科・助産学専攻科の光武智美助教が、千代田区立神田一橋中学校の生徒に「命の授業」と題した授業を行った。

「胎児人形などを用いて説明を行った。『およそ3億分の1という奇跡的な確率で生命が生まれること、また先祖代々が途切れても自分たちの命に繋がってこなかったことを考えると、皆さんも命の大切さを改めて実感できるのではないでしょ

うか」と生徒に語りかけ、もっと自分や友達のことを大切にできると思う」という感想が聞かれた。自分自身や他人のかけがえない命の大切さについて思いを巡らせる貴重な機会となった。

光武助教は「胎児人形を抱っこする生徒さんの表情は柔らかく、自分や周囲の人々の『いのち』について想像している様子があった。人が生まれる育つという過程に触れる体験の少ない現代の子供たちには、意図的に『いのち』について学ぶ環境を整える意義がある」と改めて思った」と振り返った。

高柳俊一名誉教授逝去(7月28日、前立腺がんのため死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)



「せかい探究部」は、上智学院傘下の教育事業会社でタイのバンコクに拠点を構えるSophia GEDが、2020年から主催する高校生対象のプログラム。受講生が自

ら能力を伸ばすという観点から、入学後も、履修する授業をぶれない軸を持つて選択できている」と

7月12日、総合人間科学部看護学科・助産学専攻科の光武智美助教が、千代田区立神田一橋中学校の生徒に「命の授業」と題した授業を行った。

「胎児人形などを用いて説明を行った。『およそ3億分の1という奇跡的な確率で生命が生まれること、また先祖代々が途切れても自分たちの命に繋がってこなかったことを考えると、皆さんも命の大切さを改めて実感できるのではないでしょ

うか」と生徒に語りかけ、もっと自分や友達のことを大切にできると思う」という感想が聞かれた。自分自身や他人のかけがえない命の大切さについて思いを巡らせる貴重な機会となった。

光武助教は「胎児人形を抱っこする生徒さんの表情は柔らかく、自分や周囲の人々の『いのち』について想像している様子があった。人が生まれる育つという過程に触れる体験の少ない現代の子供たちには、意図的に『いのち』について学ぶ環境を整える意義がある」と改めて思った」と振り返った。

高柳俊一名誉教授逝去(7月28日、前立腺がんのため死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

## 神田一橋中学校で「命の授業」

千代田学の一環として

7月12日、総合人間科学部看護学科・助産学専攻科の光武智美助教が、千代田区立神田一橋中学校の生徒に「命の授業」と題した授業を行った。

「胎児人形などを用いて説明を行った。『およそ3億分の1という奇跡的な確率で生命が生まれること、また先祖代々が途切れても自分たちの命に繋がってこなかったことを考えると、皆さんも命の大切さを改めて実感できるのではないでしょ

うか」と生徒に語りかけ、もっと自分や友達のことを大切にできると思う」という感想が聞かれた。自分自身や他人のかけがえない命の大切さについて思いを巡らせる貴重な機会となった。

光武助教は「胎児人形を抱っこする生徒さんの表情は柔らかく、自分や周囲の人々の『いのち』について想像している様子があった。人が生まれる育つという過程に触れる体験の少ない現代の子供たちには、意図的に『いのち』について学ぶ環境を整える意義がある」と改めて思った」と振り返った。

高柳俊一名誉教授逝去(7月28日、前立腺がんのため死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

## 理工学部・荒井隆行教授が企画に参画

### ことばの不思議に迫る 特別展が大阪で開催中

「ことばの不思議を科学する」が、9月1日から11月23日の日程で、大阪の国立民族学博物館で開催中だ。

荒井教授は、音声コミュニケーションや音声福祉工学など、人間が音声によって相互にコミュニケーションする際の音声生成過程、音声知覚過程の科学的研究が専門。また、教育機関等での音響教育プログラム推進のため、声道模型教材開発にも積極的に取り組んでいる。

高柳俊一名誉教授逝去(7月28日、前立腺がんのため死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

福島章名誉教授逝去(8月1日死去)

この協働事業の実例として、パナソニックホールディングス株式会社CSR・企業市民活動担当室企業市民活動企画課の多

田直之氏が、無電化地域へのプロジェクト「LIGHT UP THE FUTURE」を紹介した。最後に、アフリカビジ

ネスに実務で関わる卒業生を交えてトークセッションを行い、盛況のうち「ことばの不思議」シンポジウムは終了した。

荒井教授は、「この特別展では、さまざまなことを考える工夫がなされている。ヒトの進化や地球上の言語の多様性などの比較など、言葉の不思議に迫る特別展だ。

荒井教授は、「この特別展では、さまざまなことを考える工夫がなされている。ヒトの進化や地球上の言語の多様性などの比較など、言葉の不思議に迫る特別展だ。

荒井教授は、「この特別展では、さまざまなことを考える工夫がなされている。ヒトの進化や地球上の言語の多様性などの比較など、言葉の不思議に迫る特別展だ。